

2026年（4月入学）

## 佐賀大学大学院入学試験問題

地域デザイン研究科（第2次）

地域マネジメントコース

科目名： 都市経済学

----- 解答上の注意事項 -----

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 「解答始め」の合図があったら、全ての解答紙の所定欄に受験番号を記入すること。
- 3 問題の解答は、別に指示がある場合を除き、所定の解答欄に記入すること。
- 4 「下書き用紙」がある場合は、「解答紙」とともに「下書き用紙」も回収する。ただし、「下書き用紙」に記入した内容は採点の対象とはしない。
- 5 その他、監督者の指示に従うこと。

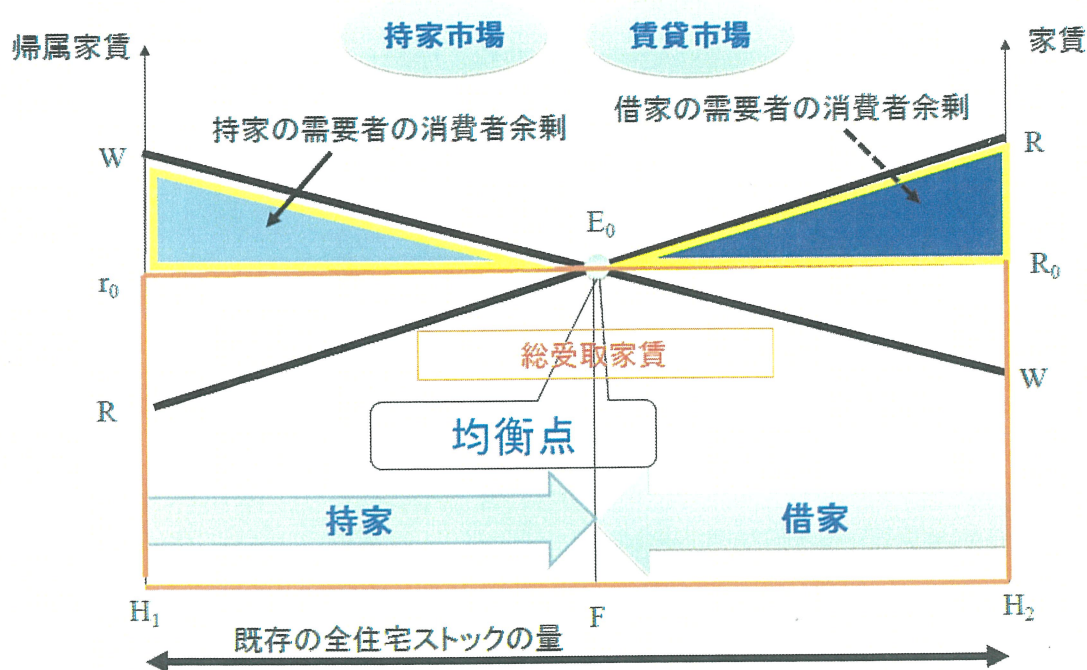
地域デザイン研究科 試験問題<以下の問題1～3の全てに解答しなさい>

問題1 借地借家法と余剰分析

図は、ある時点の自由競争下の土地需要における「持家市場」と「賃貸市場」の均衡点・余剰分析を示している。借地借家法\*がある場合、持家市場と賃貸市場はどのように変化し、新しい均衡点はどこで定まるか、そのメカニズムを2枚程度で図示しながら説明しなさい。なお、新しい均衡点だけでなく、死荷重、各余剰を示しなさい。

\*戦時中に制定された法律である。男手を兵隊にとられて働き手を失った借地借家の借り手を保護するために定められた。貸し手から契約解除ができないため、貸し手は自己消費（空き家にしたままにする）をするなどして対抗し、「持家市場」と「賃貸市場」を歪める結果となった。この歪みの是正のために、2000年に定期借地権が導入されて、貸し手から契約解除（契約見直し）ができるようになった。

(解答用紙に、問題1と明記の上、解答しなさい)



余剰分析

- ・持家の需要者の消費者余剰： $\triangle WE_0r_0$
- ・借家の需要者の消費者余剰： $\triangle RE_0R_0$
- ・社会的余剰： $= WE_0R H_2 H_1$   
 $= \triangle WE_0r_0 + \triangle RE_0R_0$   
 $+ \text{総取得家賃 } r_0 R_0 H_2$

(次頁の問題2と問題3に続く)

## 問題2 計算問題

1980年代以降、中央と地方の賃金格差、国内外の輸送費の低減を背景に、規模の経済による生産単価の引き下げのために、工場の1拠点への集約が進んだ。ある企業は工場を人口規模500人の都市Aに集約し、都市Bに輸送していたが、その工場の建て替えを迎えた。この先、国内外の輸送費が増加に転じる可能性が高いため、この企業は、工場を集約したままで建て替えるか、それとも人口規模250人の都市Bにも分割して建て替えるかの意思決定に迫られている。以下の条件のもと、各自で利潤関数を設定し、問①～③にしたがい、輸送単価 $t$ の閾値を算出し、集約と分散のどちらが最適か説明しなさい。

(解答用紙に、問題2の問①～③をそれぞれ明記の上、解答しなさい)

条件：製品単価 $p=100$ 円、製品産出量 $q$ =人口規模、

(規模の経済が働く) 集約の場合の生産単価 $c=50$ 円、

(規模の経済が働かない) 分散の場合の生産単価 $c_A$ (都市A)=80円、 $c_B$ (都市B)=80円、

都市間輸送費 $T$ =輸送単価 $t$ ×産出量(輸送量)、

都市内輸送費は都市A・都市Bともに0円である。

工場の建て替え費用は同じとして無視できる。

問①都市Bで利潤がなくなる輸送単価 $t$ の閾値を算出しなさい。

問②この企業が全体で利潤がなくなる輸送単価 $t$ の閾値を算出しなさい。

問③集約と分散のどちらがどのような条件で最適かを説明しなさい。

## 問題3 計算問題

政府が公共財 $X$ を供給している。個人1の純便益曲線は $B_1(X_1)=100X_1-2X_1^2$ 、個人2の純便益曲線は $B_2(X_2)=50X_2-\frac{1}{2}X_2^2$ 、総費用曲線は $C(X)=\frac{3}{2}X^2+6X+100$ がある。社会的に最適となる公共財 $X$ の供給量を求めなさい。

(解答用紙に、問題3と明記の上、解答しなさい)